

※TYLO サウナヒーター各機種共通・重要事項

TYLO 社のサウナヒーターは本体の真下付近の温度が 47℃以上になると自動的に電源が落ちる仕組みで安全性を高めています。

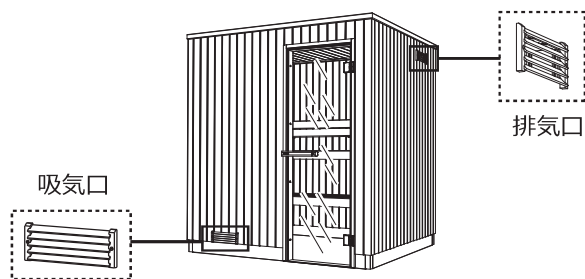
その為、TYLO 社の純正サウナユニットは予めサウナ室内に自然吸・排気口が設けられていて使用中は絶えず空気を循環して使用するようになっています。

建築でサウナルームを制作し TYLO 社のサウナヒーターのみを設置する場合も同じように吸気口と排気口を設置して空気を循環させて使用する必要があります。



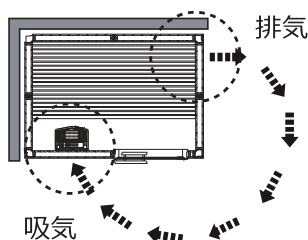
空気の換気・循環が出来ないとサウナヒーターが正常に動かず機械が途中で止まってしまい使用する事が出来ません。
(空気の循環が出来ないと機械の故障の原因になり保証も対象外とさせていただきます)

TYLO 社の純正サウナユニットの換気口の位置

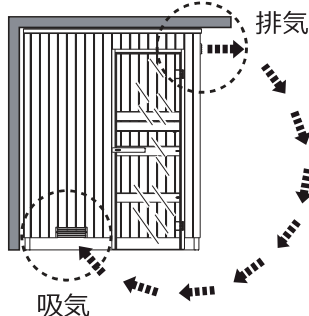


空気循環イメージ

平面図

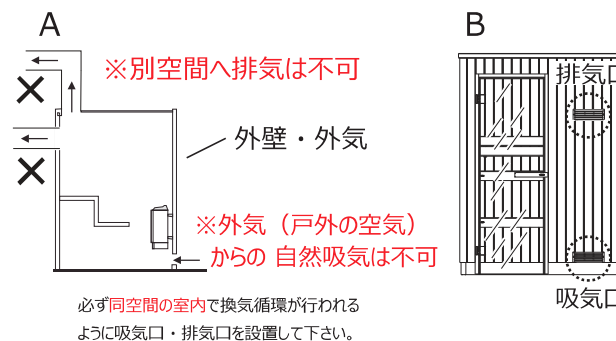


立面図

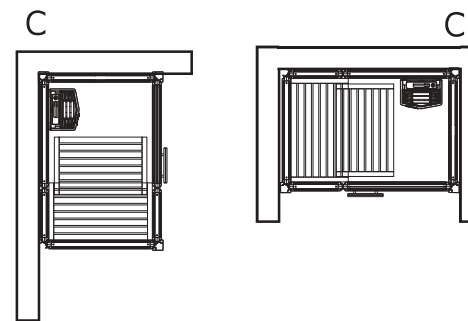


いずれかの方法で吸気口・排気口を設置してください、吸気口はサウナヒーター真下に設置して排気口はその対角部の出来る限り距離を取って空気が循環対流するようにして設置して下さい。
(吸気口・排気口の大きさは共に 100mm×100mm程度の大きさにしてください)

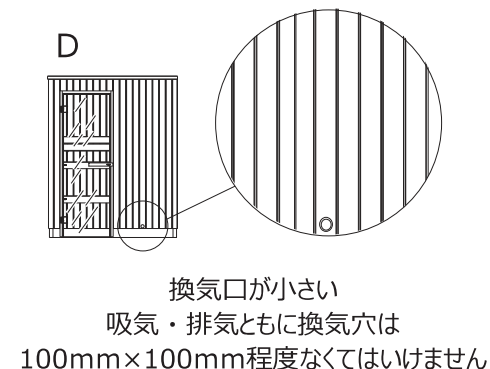
✕ な設置例 A・B・C・D



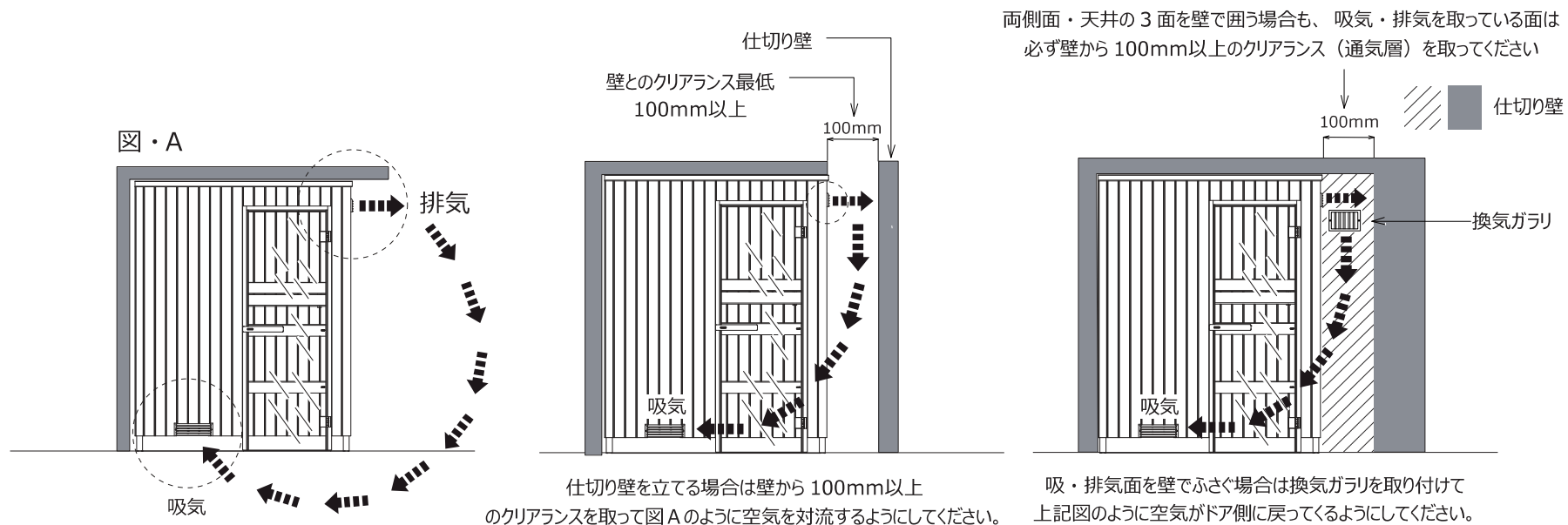
※吸気口と排気口は対角部の離れた場所に設置しなくてはなりません。このケースだとサウナ室内の空気が循環せずにショートサーキットを起こしてサウナヒーターが止まってしまいます。



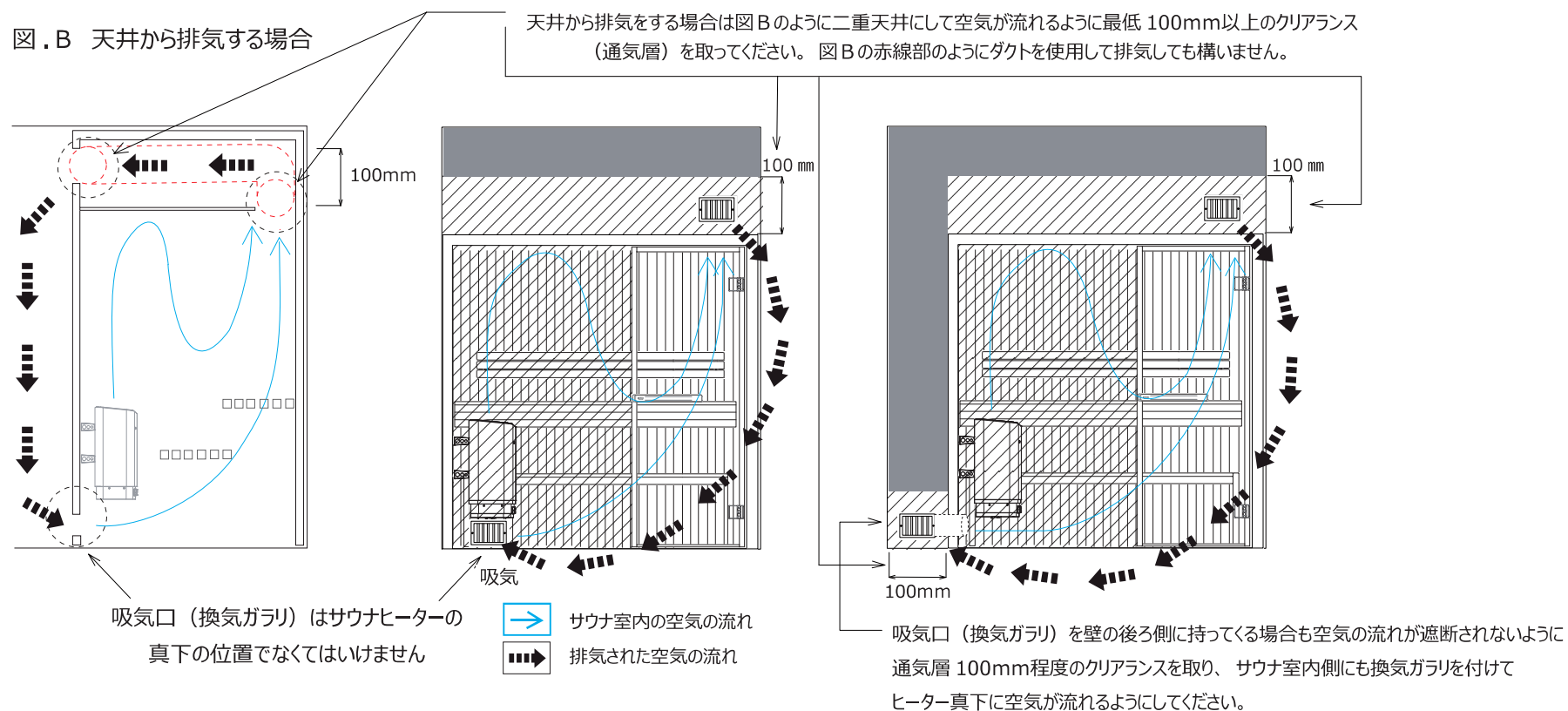
吸気ができない位置にサウナヒーターがついている
※サウナヒーターは基本ドア側面に設置しなくてはなりません。



換気口が小さい
吸気・排気ともに換気穴は
100mm×100mm程度なくてはなりません



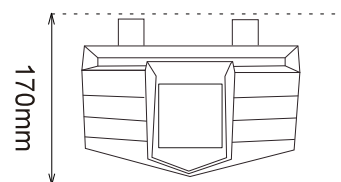
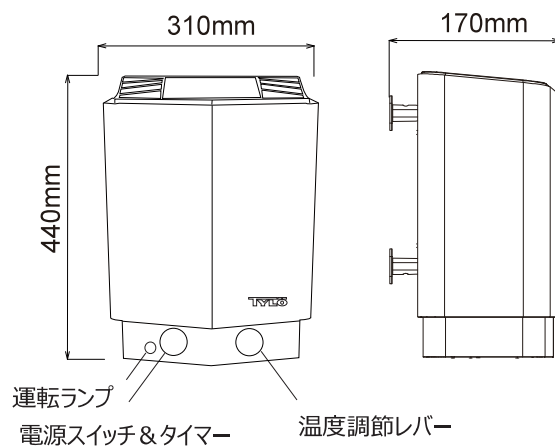
図・B 天井から排気する場合



正面図

側面図

上面図



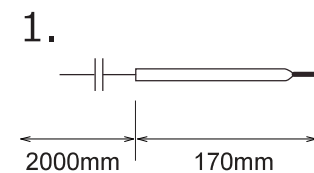
ヒーター本体重量 8 k g

石重量 3~4 k g

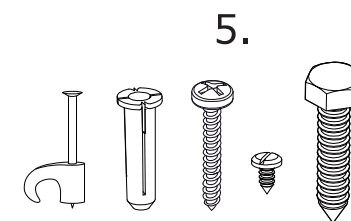
形式	Compact2/4
出力	2.2/4.5kW
電源	単相200V
適応容積	1.2~4.5m ³ (立米)
操作パネル	無し 本体操作型

サウナヒーター		Compact2/4	
K W		2.2	4.5
単相100 V	amp	22	---
	mm ²	6	---
単相200 V	amp	11	23
	mm ²	2.5	6

同梱付属品



本体とキャピラリーチューブでつながっています



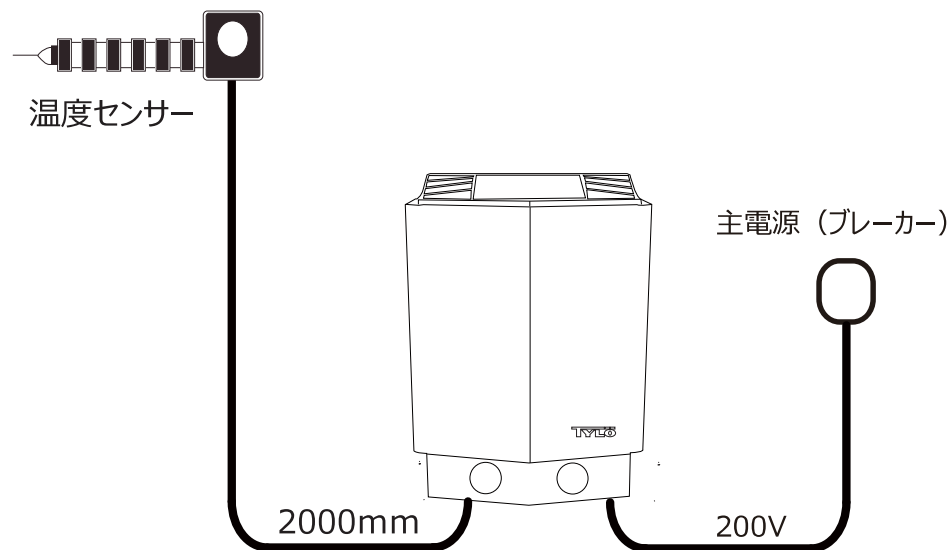
- 1.温度センサー
- 2.温度センサーカバー
- 3.本体取付ブラケット
- 4.短絡銅版

- 5.取付けビス各種

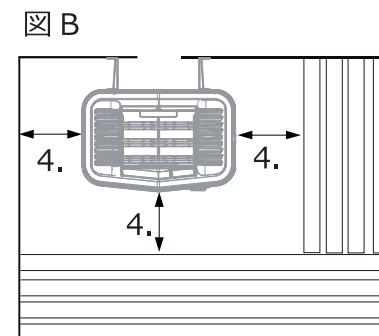
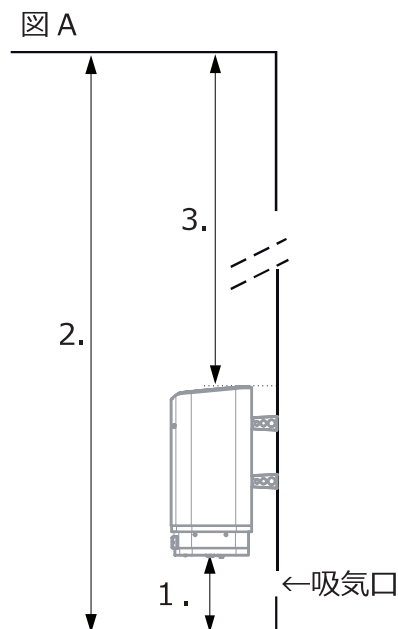
Compact2/4 の設置について



温度センサーで室内温度を感知してヒーターの ON/OFF が行われます、サーモセンサーの設置位置は実際に人が入浴する場所付近（ベンチ等）で床から高さ 1500mm - 1800mm の位置に設置して下さい。
(直接熱気が当たるヒーター真上部分の設置は避けてください)

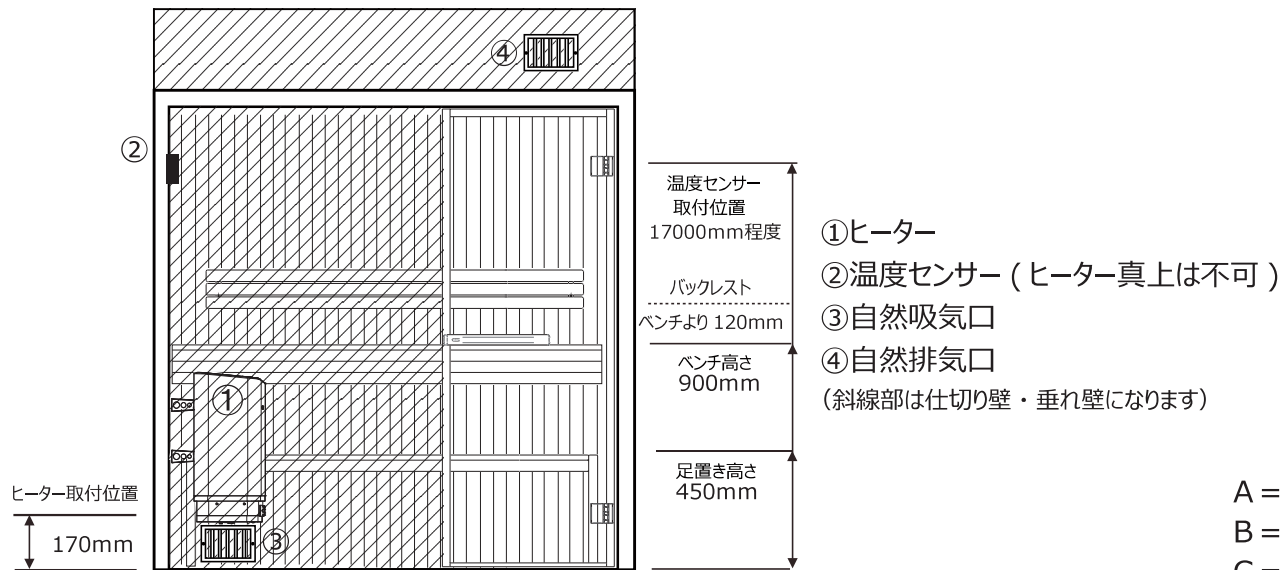


ヒーターは床より 170mm の位置に設置して
横壁から最低 100mm 以上は距離を取ってください
(専用壁掛けラック同梱)

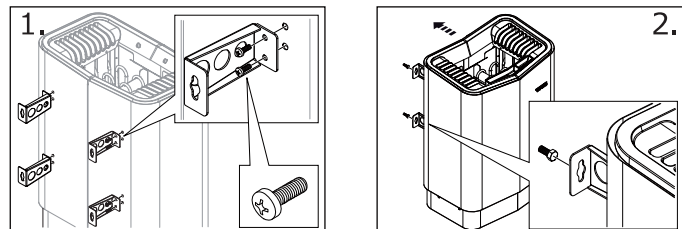


- 図 A : 1. ヒーターの設置位置は床より 170mm の位置に設置して下さい。
図 A : 2. サウナ室の天井高は 1900 ~ 2200mm 程度に設定して下さい。
図 A : 3. ヒーター取付位置から天井まで最低 1030mm 以上は確保して下さい
図 B : 4. ヒーターの左右側面と前方は（壁やベンチ）100mm 以上は距離を取って設置して下さい。

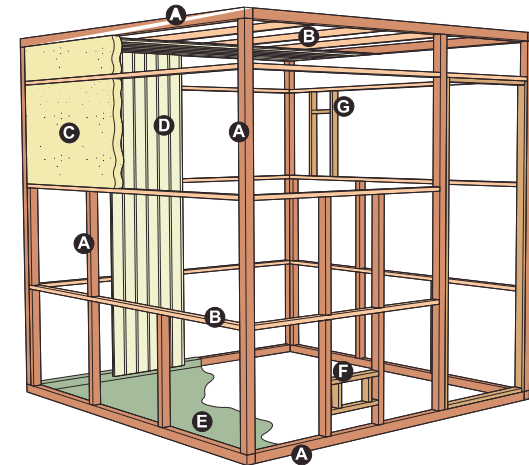
各種取付設置例



サウナヒーターの取付け方



サウナルームの作り方



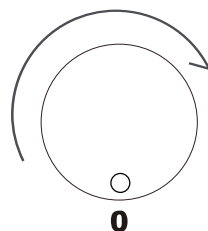
- A = フレームは垂木や 2×4 材で施工
- B = 補強材
- C = 断熱材 50mm（壁と天井全て）+ タイバックシート
※断熱材・グラスウール・ウレタン等
- D = 室内仕上材（アスペン・スプルース・ヒノキ）
※入浴中身体に触れない箇所はタイルでも可
- E = フローリング・タイル・クッションフロア
※床付近は温度上昇せず、水分を吸わないような素材
- F = サウナヒーター真下部分・吸気口 100φ程度
- G = 上部・排気口 100φ程度
- ベンチ = 1 段目 H450mm（足置き）
2 段目 H900mm（座席）

※Cの断熱材とF・Gの吸排気口は必ず設置して下さい

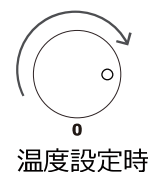
本体と操作について

温度を設定する

B 温度調節レバー 拡大図



Bは温度調節レバーのダイヤルになります、本体に付随されたサーモセンサーと連動しています、ダイヤルのメモリを右へ回すと室内温度が上昇します、ダイヤルが0のままだと室温は上昇しません
好みの温度を調節して設定し入浴して下さい



運転ランプ

リセットボタン

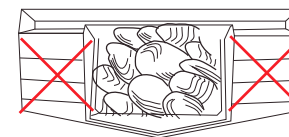
A 電源スイッチ&タイマー

B 温度調節レバー

加湿（ロウリュについて）

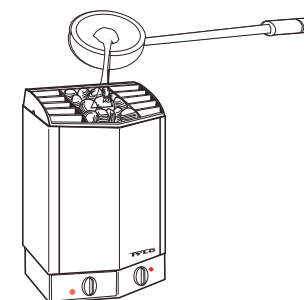
※加湿する場合の注意点

石に直接水を掛ける時は跳ね返りに気を付けて少量ずつ掛けてください（30m l 程度）石が十分に熱されていない状態で水を掛けると、機械の内部に水が入り込み故障の原因となります。



左図が示す × 印がついているヒーター部分には絶対に水は掛けないで下さい、故障の原因になります。

一回に石に掛ける水の量は
30m l ～ 50m l にしてください

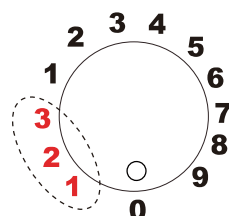


サウナを運転する

電源の入切は全てAの電源スイッチ&タイマーで行います

A 電源スイッチタイマー

拡大図



Aのスイッチタイマーのレバーを回すとスイッチオンになります。

オンになると運転ランプが点灯します、丸印がついている赤数字の

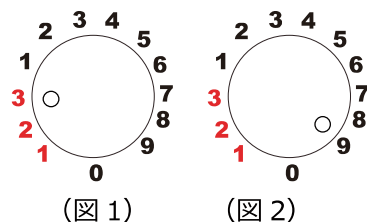
1・2・3がタイマーになります、1に合わせると1時間後自動停止

2に合わせると2時間後自動停止、（図1）3に合わせると3時間後自動停止に設定できます。

（3時間以上連続使用の場合は手動スイッチを入れ直してください）

丸印の赤数字以降の1～9までの数字はタイマー予約になります。

例えば（図2）9に数字を合わせると9時間後にスイッチONになり3時間連続運転して停止します。



（図1）

（図2）